

# 八雲の地熱開発

再生可能エネルギーの中でもベースロード電源として期待され、八雲町においても開発が進められている地熱発電に関する情報をお届けします。

## 地熱シンポジウム in 函館 が開催されました

去る10月17日(火)～18日(水)に函館市において「地熱シンポジウム in 函館」が開催されました。

八雲町では鉛川地区および熊石地区での地熱開発を全国にPRするため、鉛川地区の開発事業者であるデナジー株式会社および三井不動産株式会社と熊石地区の開発事業者である前田建設工業株式会社と共同でシンポジウムの一環として開催された地熱展示会に出展しました。地熱シンポジウムの様子は以下のとおりです。

### 地熱展示会 鉛川地区、熊石地区における地熱開発の状況を紹介パネルを用い紹介しました。



八雲町紹介パネル



八雲町紹介パネル

### シンポジウム

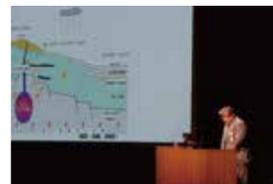
シンポジウムでは講演の他、地熱利用事業の事例紹介などが行われ、鉛川地区、熊石地区両地区の地熱理解促進勉強会員が参加し、地熱発電に関する知識を深めてきました。また、シンポジウムの前段において、地熱開発議員連盟やJOGMECの皆さんによる熊石地区の調査現場の視察が行われました。



八雲町ブースの様子



シンポジウムの様子



地質研究所 高橋氏の講演の様子



現場視察の様子

# 八雲再エネ通信 vol.5

発行：八雲町役場 商工観光労政課  
住所：八雲町住初町138番地  
連絡先：0137-62-2116  
平成29年12月1日発行

八雲町における「再生可能エネルギー」導入促進に向けた取り組みや、「再生可能エネルギー」に関する知識、情報をお届けします。

## 「八雲町“再生可能エネルギー導入促進”セミナー」を開催致しました

7月27日(木)に、地域の資源を活かした再生可能エネルギーの利用を考える「八雲町再生可能エネルギー導入促進セミナー」を実施致しました。今回は、国内外の先進事例として、デンマーク王国大使館、寿都町役場の方をお招きし、それぞれの国や町での再生可能エネルギー事業と地域へのつながりに関してお話をいただきました。

### 「八雲町“再生可能エネルギー導入促進”セミナー」

#### ◆デンマークの再エネ事情は？

デンマークでは、再生可能エネルギーの活用が進んでおり、風力発電による発電量が全体の41%を占めています。これに太陽光やバイオマス・バイオガスを加えると56%(2014年)となり、大部分の電力を再生可能エネルギーで賄っていることがわかります。そして、デンマークは、2050年までにエネルギーのすべてを再生可能エネルギーで賄う目標を掲げています。また、再生可能エネルギー導入に際して利害関係者(自治体、事業者、住民等)との対話を重要視している他、地域住民が出資など発電事業へ参加できる仕組みが設けられています。



デンマーク王国大使館 田中氏

#### ◆寿都町の風力発電の取組は？

年間を通して強い風の吹く気候を活用し、町営の風力発電事業を行っています。現在は11基の風車(16,580kW：一般世帯で9,000世帯分の電気を賄う能力)が稼働し、その利益は町の財源として、産業振興、環境保全活動、医療・福祉の充実、教育等様々な形で“まちづくり”に還元されています。



セミナーの様子

#### ★比べてみよう！日本の電力事情★

日本国内の再生可能エネルギーによる発電量は、全体の約15%を占めています(2016年度)。また、日本の目標では2030年度には、省エネルギーを行いつつ、再生可能エネルギーの割合を22～24%にすることを目指しています。

## 再生可能エネルギーに関する「ワークショップ」「現地視察会」「アンケート調査」を実施致しました

町内における再生可能エネルギーの立地について考えるワークショップを7月、8月、10月に3回開催し、これに併せて寿都町が運営する風力発電施設の現地視察会も実施致しました。また、10月には「風力発電に関する町民アンケート調査」を行いました。ワークショップとアンケート調査で出された町民の皆さんの意見を、現在行っている風力発電に係るゾーニング事業などへ活かしていきます。



寿都町の風車

## 地熱開発現場町民視察会

去る11月16日に町民の皆様を対象とした開発現場視察会を開催いたしました。当日は、17名の参加があり、普段見ることの出来ないリグ(掘削機)の見学、現場担当者からの説明を受け地熱開発への理解を深める機会となりました。



見学会の様子

**町内での再生可能エネルギーの取り組み**

**地熱**

**鉛川・熊石の進捗状況**



※地熱開発事業による調査から操業開始までの流れ

**鉛川地区（事業3年目）**

鉛川地区の調査状況については、平成28年度の調査井の掘削調査の結果、地下構造・資源量のなお一層の確認を目的とした約370mの増掘を行いました。現時点では、熱水を地下に戻すための還元井の掘削を行っているところであり、今後は還元井の掘削後噴気試験を行い、資源量分析、地熱開発の事業性評価を行う予定です。



鉛川の開発現場の様子

**熊石地区（事業2年目）**

熊石地区の調査については、すでにお知らせのとおり、平成28年度に平田内地区、大谷地区の2地域において、地表調査を実施し、大谷地区において深部に地熱貯留層が存在する可能性が高いという調査結果が出ました。平成29年度においては、10月下旬から調査井の掘削調査を行っており、掘削後、資源量分析等行う予定となっております。



熊石の開発現場の様子

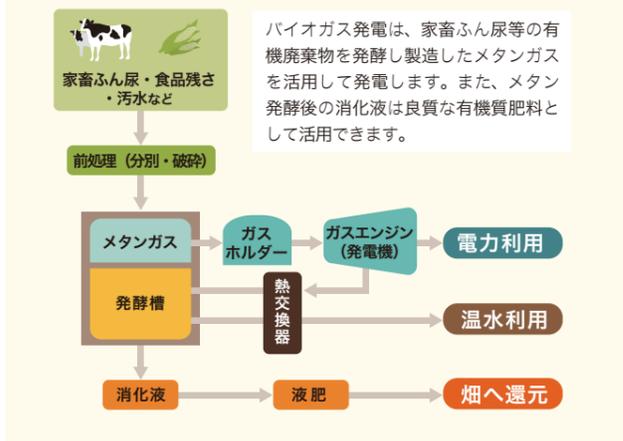
**バイオマス**

酪農・畜産が盛んな八雲町においては、家畜ふん尿を活用したバイオガス発電の取り組みが進められています。

**バイオガス発電のメリット**

- 一石五鳥のバイオガスプラント**
- 自然と生活環境保全…臭気対策、水系への影響の防止が図られる。
  - 家畜糞尿処理の低減…ふん尿処理の労力の低減が図られる。
  - エネルギー生産…熱と電力が生産、活用が図られる。
  - 地場産業の育成…エネルギーの地産地消が図られる。
  - 有機肥料生産と地力増進…生産される「消化液」は有機肥料として圃場に還元され、化学肥料購入費が低下、地力の増進が図られる。

**バイオガス発電の仕組み**



**町内における導入状況**

<p><b>有限会社竹村牧場 (東野)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●規模・能力：発電出力 150kW</li> <li>●用途・目的：売電・ふん尿処理</li> <li>●飼養頭数：550頭</li> <li>●ふん尿処理量 43t / 日</li> <li>●設置年度：平成26年12月</li> </ul> 	<p><b>有限会社八雲フィードデザイン (野田生)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●規模・能力：発電出力 200kW</li> <li>●用途・目的：売電・ふん尿処理</li> <li>●飼養頭数：600頭</li> <li>●ふん尿処理量 37t / 日</li> <li>●設置年度：平成27年3月</li> </ul> 	<p><b>株式会社平野牧場 (立岩)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●規模・能力：発電出力 100kW</li> <li>●用途・目的：売電・ふん尿処理</li> <li>●飼養頭数：240頭</li> <li>●ふん尿処理量 14t / 日</li> <li>●設置年度：平成29年6月</li> </ul> 
---	---	--

上記3件の他、春日地区において(株)学林ファームが今後バイオガス発電に取り組む予定です。